

藤女子大学紀要, 第 49 号, 第 II 部: 195-201, 平成 24 年.
Bull. Fuji Women's University, No. 49, Ser. II: 195-201. 2012.

北海道における明治期の幼児教育

— 札幌の公立幼稚園教師「西川かめ」の生涯から —

松 浦 映 子

Abstract

One hundred and thirty-six years have now passed since our country's first kindergarten was established in 1876 (Meiji 9) by the Tokyo Women's Normal School. Thereafter, among the many records related to the history of childcare to the present, there are extremely few that are related to Hokkaido.

In this study, I paid special attention to Kame Nishikawa, a young teacher who worked at Sapporo's first public kindergarten 124 years ago. I examine the life of Ms. Nishikawa from her education at one of the country's highest educational institutions to her contribution to preschool education in Sapporo at a time when school attendance for girls was less than 25%. From there, I examine the constitution of preschool education in Hokkaido and seek to clarify its influence.

1 はじめに

明治維新からすでに 145 年を経た。明治 9 年 (1876 年) わが国初の幼稚園として東京女子師範学校附属幼稚園が創設されて以降、北海道の幼児教育においても黎明がもたらされていた。

札幌における初の幼稚園は明治 21 年 (1888 年) 5 月、宣教師スミス女史の幼稚園であるといわれている¹⁾。札幌市立幼稚園の開設は昭和 42 年 (1967 年) 3 月、手稲町が札幌市に併合されたのに伴って移管された手稲中央幼稚園とするのが一般的である²⁾。しかし、スミスの幼稚園に遅れること、3 か月後の明治 21 年 (1888 年) 8 月に公立の幼稚園が開園し、最高学府において最新の幼児教育を学んだ西川かめという若き女教師が存在したことが記されている³⁾。

本研究は札幌における明治期の公立幼稚園に着目し、西川かめの生涯の足跡を追うことによって、北海道の幼児教育の成り立ちや背景、影響を及ぼした人物などを明らかにしていこうとする試みである。

2 西川かめについての概要

さっぽろ文庫 41「札幌とキリスト教」に西川かめの顔写真入り記載文がある⁴⁾。

※本文より要約

西川かめ・明治 3 年 (1870 年) 1 月 8 日生れ

北海道出身者初の東京女子高等師範学校小学校師範科 (現お茶の水女子大学) に学んだ。当時の



写真 1 西川かめ

創成小学校校長北村瑛吉の懇請を受けて卒業と同時に札幌に赴き、創成小学校訓導として着任。明治21年(1888年)8月に幼稚園を開設した。

西川は松前出身で、当時18歳。開設準備から携わり開園式には風琴を奏して式を盛り上げた。

明治22年(1889年)校舍消失により、幼稚園は札幌女子小学校(現・グランドホテルの位置)に移転したが、生徒の増加による狭隘を理由に廃止の運命をたどった。(1898年3月閉鎖)

西川は尋常科1年の担任に転じたが、1898年9月(当時28歳)アメリカ・カリフォルニア州ミルスカレッジに留学した。4年後、札幌に戻る。北海道初の庁立(道立)札幌高等女学校新設に伴い、教諭として迎えられ⁵⁾、英語、図工を担当した。一方では北海道教育会の事務所を助け功勞した。

明治22年(1889年)7月、大島正健師の下(札幌基督教会・現札幌独立キリスト教会)で洗礼を受け、熱心に教会活動も行った。明治38年(1905年)8月庁立札幌高等女学校を退職。大阪に移り結婚して「湯川」姓となる。(35歳)大正7年(1918年)1月18日(48歳)永眠した。

3 「西川かめ」の生い立ちと学問習得の背景

3-1 松前時代

松前は箱館戦争(1868年)により町は3分の2を消失し崩壊していた。加えて、度重なる大火、コレラ、天然痘の蔓延などもあり、福山城下の大都市は文化、産業、人口共に急速に衰退した⁶⁾。西川はそのような時代背景の中、松前郡福山東新町23番地・現松前町字豊岡にて出生した。

以下、松前町立松城小学校学籍簿の抜粋である⁷⁾。

○住所	函館県松前郡第1学区 神明町1番地
○身分	士族 西川萬里 叔母
○入学日	明治14年(1881年)11月12日
○従前の教育	松城学校 ⁸⁾ ニ於テ2級後期就学
○父母または後見人	青山ヤス(神明町1番地) 函館県士族
○品行性質	性向 並 学業 勉励
○退学年月日	明治16年(1883年)3月16日
○退学理由	函館女子師範学校入学
	11歳10か月で松城小学校中等科4級に入学し、

2年半後の3月(13歳)には中等科1級に達している。西川の成績優秀は学籍簿にて判明しているが、おそらく松城学校で基礎学力を培っていたものと考えられる。明治14年(1881年)当時、全国の女子小学校就学率は24.7%であった⁹⁾。卒業名簿の中に西川の名が記載されていなかったのは小学校中等科修了時に退学し、函館女子師範学校に転入学していたためである。学籍簿後見人欄には父親の名がない。後見人「士族・青山ヤス」が同居していた母親であるとみられるが¹⁰⁾、姓が異なること、身分の欄に「士族 西川萬里の叔母」と、姪の名が記載されていることは不自然であり、複雑な家庭事情が考えられる。母親は裁縫教師をしていた。姪の西川萬里は兄の子とされ(1878年7月11日生) ほぼ10歳違いである¹¹⁾。

3-2 函館時代

西川は函館師範学校附属女子小学校高等科に入学し、修了の後、明治18年(1885年)3月に開設された県立函館女学校女子師範科へ進学したとみられる¹²⁾。その科は同年12月には函館師範学校に合併していることから、通称「函館女子師範学校」とされたようだ。教員不足の折、特に女子教員の養成に急を要していた開拓使(道庁の前身)は明治13年(1880年)以降、女子の師範学校伝習生を10名募集し、月額5円の支給を行ったとある。西川の函館での生活を支えていたのはこれに該当すると思われる¹³⁾。

明治16年(1883年)当時、函館師範学校附属小学校の中に幼稚園を開設する動きがあった。明治15年(1882年)に着任していた女子師範教授櫻井ちか¹⁴⁾と明治16年(1883年)に着任した助教授武藤八千¹⁵⁾が協力して仮設幼稚園を開園させたのは明治16年(1883年)11月1日である¹⁶⁾。両者とも東京からの転入者である。一般的には幼稚園という概念のない時代であったにも関わらず、函館師範学校の敷地内に50名もの幼児を集めた先駆的な幼稚園が運営されていた。これが北海道における最初の幼稚園である。櫻井ちかと武藤八千は西川とは師弟の関係である。女子教育の先駆者、櫻井ちかは英語を、東京女子師範保姆練習科一期生の武藤八千は音楽を担当した。西川は両者から幼児教育や更なる高等教育の示唆あるいは精神的な影響を受けていたことが考えられる。これを動機として最高学府への進学へとつながったのでは

ないかと考察する。

3-3 東京時代

明治9年(1876年)11月東京女子師範学校附属幼稚園が開設された。初代園長は関信三である。日本初の幼稚園は明治皇后自ら開園式に臨むほどに近代国家の国是を受けたものである。アメリカのプロテスタント系教会の日曜学校で盛んだったフレーベル教育が導入された。明治11年(1878年)6月には幼稚園保姆練習科が併設され幼児教育者の育成が開始された。明治13年(1880年)には保姆練習科は廃止され本科生が小学校教員及び幼稚園保姆になれるように課程が組み替えられた。後に東京女子高等師範学校(現お茶の水女子大学)となっていく¹⁷⁾。西川は明治19年(1886年)4月入学者11名のうちの一人である¹⁸⁾。

当時の生徒募集規則(1886年10月14日):『生徒を募集するには府県知事をして撰挙書に履歴書、体格検査書、保証人2名を添え、……女性生徒は尋常師範学校の2年間の課程を終わらしたる者、もしくはこれに均しき学力ならびに資格を有するものより撰挙すべし。高等師範学校長その中につき選抜するものとする』とある。そして、女子師範学科の府県撰挙生徒の中に、「函館1名」とある。それが西川かめである。官費入学生の支給金の月額は8円であった¹⁹⁾。入学から3か月の試験期間を経て正式入学となるため、卒業は7月であった。

教科は「倫理道德」、「教育史」、「教育学総論」、「教育学各論」、「管理法」、「教授法」、「保育法」、「講読」、「文法」、「作文」、「文学」、「英語講読」、「英文法」、「算術」、「代数」、「幾何」、「地理」、「歴史」、「植物」、「動物」、「鉱物」、「生理衛生」、「家事」、「習字」、「音楽」、「体操」など幼児教育に特化しない広範囲の学習内容であった。附属幼稚園での観察や実習も行われていたものと考えられる。教育内容の詳細についてはお茶の水女子大学の文献に多くあり²⁰⁾、割愛する。学校の敷地内に寮があり徹底的な管理の下で学問に専念する環境が備えられていた。学問を志した彼女らは特別な存在であり、社会的にも大きな責務を負わされていたようである。特に官費入学した女子はその服務規程に、卒業後5年間教職に従事、そのうち、2か年は文部省指定の場所に奉職する義務が課せられている。(男子は10年の教職義務、うち公官庁に3



写真2 明治21年7月卒業記念写真 後列左から3人目

か年)明治21年7月卒の11人の同窓生のうち、8名が職についている。

3-4 札幌時代

卒業後、松前に立ち寄り母親と姪・西川萬里を同伴して札幌(学校付属甲号官舎・南3西7)に着任したことをみても西川は二人を扶養する立場にあったと考えられる。およそ1か月の準備期間で開園を果たしている²¹⁾。

西川は来札1年後の明治22年(1889年)7月に札幌基督教会(現札幌独立キリスト教会)にて洗礼を受けている。教会史会員名簿の186番は、かなり初期の番号である²²⁾。札幌基督教会は日本におけるキリスト教の先進的かつ革新的な教会であった。いわゆる札幌バンド²³⁾と称される日本のキリスト教史に残るうねりの中に居て西川も積極的に教会活動も行っている。西川がアメリカ留学に至った経緯は不明であるが札幌独立キリスト教会史に明治31年(1898年)9月に「マリアのフランス宣教会渡米」を見出すことができる。複数名での渡米であったが詳細は記されていない。4年後帰朝の際の歓迎会に西川の名がある²⁴⁾。これが西川の留学である。

一方、直属の校長小林到²⁵⁾が担っていた北海道教育会の幹部として運営に参加している²⁶⁾。会誌は膨大な量があり、現在も北海道教育史の貴重な資料となっている^{27)、28)}。

4 札幌区創成小学校附属幼稚園の開設の経緯

札幌における初の公立小学校は明治14年(1881年)開設の創成小学校(北1西2)である²⁹⁾。(前

身は雨龍学校) 明治5年(1872年) 発布の「学制」には「幼稚小学」として幼稚園が規定されている。

開拓使においても早くから幼稚園の開設計画されていたが、教員が獲得できずにいた。

明治13年(1880年)には開拓使大書記官の調所広丈³⁰⁾が上京して保姆を探す、東京女子師範の保姆養成科も第1期生が出たばかりで、来道する女子は全く断念した。明治15年(1882年)には開拓使学務課長三吉笑吾が設置、認可、組織編制などの詳細を調査の上、調所広丈と共に幼稚園設置の機運を醸成したとある³¹⁾。明治19年(1886年)道庁が誕生し、札幌区の正則小学校は創成小学校のみとなったことを機に、当時の校長北村瑛吉は自ら東京女子高等師範学校に出向き、在学中の西川に懇請して札幌へ招聘したとある³²⁾。開園日が明治21年(1888年)8月31日と変則的なのは、西川かめの卒業が7月だったためであろう。構想から教員獲得までに8年もの歳月をかけた大事業であった。

5 札幌区創成小学校附属幼稚園

創成小学校(北1西2・現札幌市役所)の南西の一画に28坪(約92平方メートル)の平屋園舎が建設された。総工費264円とある。建物の写真、内部の構造などについての資料は見当たらない。開園時の校長は小林到、園長二宮直方である。園児40余名を収容した。明治21年(1888年)8月31日、開園式の日、西川は風琴(アコーディオン)を奏して式を盛り上げたとある。当時の東京女子高等師範附属幼稚園の保育を模して展開したとすると、「遊戯」「唱歌」「談話及び手技」の3項目を基本とする時間組みだったのではないかと考えられる³³⁾。フレーベル教育には教材遊具なども多く必要であったことなどから、環境整備しながらの運営が行われたであろう。西川は音楽と遊戯に優れた実績を上げ、教え子に作曲家梁田貞(作品に「城ヶ島の雨」「どんぐりころころ」など)の名がある³⁴⁾。この園舎は明治25年(1892年)5月4日、町の中心部を焼けつくした大火によって小学校と共に消失した。再建の際には、札幌女子小学校(現グランドホテルの位置)の中に付設されたがその時の校長も小林である。教育令により男女別学となったため札幌女子小学校には女子児童が急増し、幼稚園は明治31年(1898年)狭隘を理由

に閉鎖を余儀なくされた。これを惜しみ、私立幼稚園を新設する動きがあったが実現しなかった³⁵⁾。以来70年間、札幌には公立幼稚園が開設されなかった。

開拓使(道庁)が管理運営した唯一の公立幼稚園として10年間維持存続し得たのは西川の功績によるものであろう。

6 西川かめを取り巻く人的環境

6-1 武藤八千(むとう やち)

東京女子師範学校保姆練習科(半年制)を明治11年(1878年)に卒業しているので第1期生と考えられる。卒業後5年間東京採用とある。明治14年(1881年)豊田英雄³⁶⁾(水戸出身、日本初の幼稚園を松野クララと共に実践した)の部下として天覧授業(皇后が保育を参観)を行ったとの記述³⁷⁾から東京女子高等師範学校附属幼稚園に勤務していたことが判明した。明治16年(1883年)函館師範学校が東京にて教師の募集を行った際に応募して採用された。明治16年(1883年)11月1日、函館師範学校附属小学校の中に仮設幼稚園を開園した。(本稿3-2参照)同僚桜井ちかは明治17年(1884年)7月に辞職。

明治20年(1887年)附属小学校の廃止に伴い廃園となった。武藤は明治21年(1888年)6月に私立函館幼稚園を開設する。22年(1889年)2月の函館大火により消失。以後4回にもなる開園、閉園を繰り返し、ついに明治36年(1903年)廃園となり帰郷した。20年間の粘り強い業績は函館市史にも称えられている。西川は函館女子師範の学生として武藤と幼稚園に深く関わりがあったことが考察される。

6-2 サラ・クララ・スミス

スミス女史はキリスト教宣教師であり、英語教育のためのお雇い外国人であった。明治13年(1880年)、初めの着任地は東京麹町の新栄女学校であり、後に校長になっている。健康を害したため療養の地を北海道に定め、明治16年(1883年)札幌へ渡るが間もなく函館に転居している。函館にて女塾を開き、夜は学校教員に英語を教授したとある³⁸⁾。スミス女史が明治16年から19年まで函館に滞在していたのと、西川が函館に滞在していた時期が符合するが接点があったかについては

不明である。明治 19 年 (1886 年) 道庁の要請を受けて札幌師範学校の英語教師となり再度来札した。札幌における女子教育の必要性を唱えたところ賛同者が道庁を動かし土地、建物の貸与を受け、女塾の開設となる (北 1 西 6)。やがて女学校の認可を受け後に北星女学校となる。スミスの女学校は大島正健が校長、新渡戸稲造が顧問など、教会の重鎮が支えた。スミス女史は札幌基督教会 (現札幌独立キリスト教会) を支援する有力な宣教師である。宣教師と教会員という関係において西川とスミス女史とは接点があったことが十分考えられる。

6-3 スミスの幼稚園にかかわる人々

スミスの女塾の成功が評価され、キリスト教長老派から 250 円の資金援助を受け 12 坪 2 階建ての幼稚園を敷地内に建設した。(北 1 西 6) 桜井女学校保育科の保姆長谷川万の卒業を待って明治 21 年 (1888 年) 5 月に開園式が行われた³⁹⁾。桜井女学校は本稿 3-2 にある桜井ちかが創始者である。日本における初の私立女学校である桜井女学校には日本におけるキリスト教保育の初穂となる附属幼稚園と教師の養成機関が付設されていた。(明治 13 年 (1880 年)) そこにおいてはアメリカの保姆専門学校出身の宣教師 E. ミリケンが中心的な存在であった。保育科の開設に当たっては東京女子高等師範の教師が指導し交流が深かった⁴⁰⁾。このことから、長谷川万が受けた教育内容は東京女子高等師範に準じたものであろう。スミス女史は在京中、新栄女学校の校長として姉妹校の創始者である桜井ちかや教師 E. ミリケンと交流があった。そのため、E. ミリケンが養成した長谷川万の招聘へとつながったのであろう。(新栄女学校と桜井女学校は明治 23 年 (1890 年) に合併統合して女子学院と改称し、今日に至る⁴¹⁾。) スミスの幼稚園には、大島正健、伊藤一隆、岩井信六など有名クリスチャンの子ら 38 名が入園した。この幼稚園は土地の無償貸与期間が終了した明治 27 年 (1894 年) 廃止となっている。明治 21 年 (1888 年) から明治 27 年 (1894 年) まで、札幌の中心地区に公私、二つの幼稚園が存在していたことになる。両園が交流していたか否かについての記録はないが、教会で結ばれた人脈を通して、何かしらの交流がなされていたことを予測し、今後の調査に譲る。

6-4 新渡戸稲造と萬里子夫人

明治 24 年 (1891 年) 米国人の萬里子夫人を伴って帰国した新渡戸稲造は札幌農学校の教授である。札幌基督教会と深くかかわりをもった人物でもある。多くの社会的功績の中に明治 27 年 (1894 年) 開設した遠友夜学校がある。無学の者に就学の機会を与えたことで名高い⁴²⁾。その起源は札幌基督教会の豊平日曜学校であり、西川も教師として活動していた。西川と新渡戸夫妻が教会活動を通して関わっていたことは紛れもないが、記録はない。夫妻は一時スミス女学校の隣に (北 1 西 6) 住居を構えスミス女史とは親しく、互いに行き来していた⁴³⁾。英語力の素地のある西川は他の人より一層親しく、新渡戸夫妻、スミス女史の身近に存在していたことが考えられる。彼等からもたらされる情報は、西川にとって留学への憧憬となっていたのではないだろうか。

6-5 小林 到 (こばやし いたる)

文治元年 (1863 年) 生まれの福岡藩士である。函館師範中等師範科を卒業した小林は明治 16 年 (1883 年) 4 月 (20 歳) 松前の「福山小学校」に着任した。西川が松城小学校を去ったのと交差している。後に「松城小学校」が正則小学校になった時、若くして初代校長となり辣腕を振るう。7 年後、北海道の中心札幌に招聘され創成小学校の校長となる。また、北海道教育会の事務所を自宅 (南 2 西 6) に置き、全道会員 600 名以上の組織運営、毎月の機関雑誌の発行を担当していた。公務以外の事務量と重責は計り知れない。西川はそれをも助けている。明治 25 年 (1892 年) 大火による附属幼稚園、校舎消失の苦難をも両者は共有した。その後、札幌女子小学校 (北 1 西 4) の校長に転じた小林は校舎内に幼稚園を付設し存続に寄与した。しかし、明治 31 年 (1898 年) 幼稚園廃止が余儀なくされた。

明治 35 年 (1902 年) 4 月、北海道初の庁立札幌高等女学校 (北 3 西 7) の初代校長に着任した小林はアメリカ留学から帰朝して間もない西川を筆頭の教師として起用している。のびやかな学校経営は定評があり、明治 41 年 (1908 年) には庁立小樽高等女学校も開設した。西川の札幌での教師生活の全てにおいて小林は直属の上司であった。小林は女子教育、幼児教育に卓見をもつ人物として後世に名を遺している⁴⁴⁾。西川は長年小林の薫陶

を受け、幼児教育にとどまらない教育界全般にわたる広い視野をもち得ることができたのではないかと考察する。また、小林も西川の実力を高く評価していたものと考えられる。

8 まとめと今後の課題

本研究は124年前に存在した札幌の公立幼稚園の教師、西川かめを中心にして北海道の保育史の端緒を探ろうとした。その中で明らかになったことは次の6点である。

- (1) 北海道における初の幼稚園は明治16年(1883年)函館師範学校附属仮設幼稚園である。幼児教育に卓越した識見をもつ武藤八千によって東京女子師範附属幼稚園の保育に匹敵する先進的な教育活動が行われていたと考えられる。
- (2) 教育行政が整いつつある中で、幼児教育がおざなりの傾向になっていたのは幼児教育教員の養成機関が少ないうえに中央に限られ、極端な教員不足であったためである。遠隔地北海道の幼稚園普及の遅れにも影響した事柄である。
- (3) 北海道(函館、札幌)においてはキリスト教徒、宣教師らが幼児教育の先駆的な役割を果たした。キリスト教にとっては未開拓の宣教の地である北海道ならではの特徴ともいえる。
- (4) 明治初期、向学の志があれば官費による勉学の機会が与えられた。また、若くしても要所に起用される風潮があったことなどは、明治期の人材育成、人材登用の長所である。
- (5) 創成小学校附属公立幼稚園(後に札幌女子小学校附属)が閉鎖されたのは教育行政の混迷(男女別学制度の導入や小学生の就学が急増)による物理的な理由によるものであった。幼稚園の教育成果が正しく評価されなかったという解釈もできるが行政の幼児教育軽視の傾向は否めない。
- (6) 日本の女子教育と幼児教育は一連のものとして関連が深く、平行的に考察していく必要がある。

本論は資料が乏しく推論が過ぎる傾向を自覚している。今後はそれらを埋める作業を行うと共に全道各地に広がっていった幼稚園設立の足跡や関わった人物を明らかにしていきたい。

9 おわりに

西川が生きた時代は日本が新しくなるエネルギーに満ちていた。しかし、一方においては未だ封建社会の色濃い時代でもあり、圧倒的な男性社会でもあった。本研究は明治初期、寒村の貧しい母子家庭に育った少女がいかにして最高学府に学び、いかにして海外留学にまで至ったかを調査したに過ぎない。その途上、感銘を受けたのは人との出会いの妙なることである。幼児教育に対する篤い情熱は人を通して伝播し、保育実践成果の積み重ねによって進化し受け継がれてきたものであろう。本研究は明治期の北海道と特定したがそこにあっても幼児教育に殉じた多くの人々が存在し、その土台なくして今日はないことを再認識した。

引用・参考文献

- 1) 札幌市教育委員会文化資料室 1987年、さっぽろ文庫41「札幌とキリスト教」(札幌市)140頁
- 2) 札幌市立手稲中央幼稚園岩崎裕子園長 2012年、「札幌市立手稲中央幼稚園沿革史」
- 3) 札幌市教育委員会文化資料室 1987年、さっぽろ文庫41「札幌とキリスト教」(札幌市)266頁
- 4) 脚注3と同じ
- 5) 引地正 1982年、「北海道教育会機関紙第12巻下」(文化評論社)747頁
- 6) 松前町史編集室 1993年、「松前町史通説編第2巻」(ぎょうせい)345頁
- 7) 松城小学校増川正志校長 1883年、「松城小学校学籍簿」
- 8) 松前町史編集室 1993年、「松前町史通説編第2巻」(ぎょうせい)283頁
- 9) 松前町史編集室 1993年、「松前町史通説編第2巻」(ぎょうせい)584頁
- 10) 引地正 1982年、「北海道教育会機関紙第2巻」(文化評論社)159頁に青山ヤスの名がある。
- 11) 札幌独立キリスト教会 1983年、「札幌独立キリスト教会100年の歩み・下巻」会員名簿336頁
- 12) 北海道教育研究所 1963年、「北海道教育史全道編3」(北海道教育委員会)11頁
- 13) 神山茂 1971年、「函館教育史」(函館文化会)
- 14) 下中彌三郎 1937年、「大人名事典」第3刊(平凡社)95頁
- 15) 北海道新聞社編 1993年、「北海道歴史人物事典」(北海道新聞社)373頁
- 16) 北海道私学協会 1963年、「北海道私学教育史」(北海道私学教育史編集委員会)154頁
- 17) 文部省 1976年、「幼稚園百年のあゆみ」(文部省)2頁
- 18) お茶の水女子大学資料 1934年、「東京女子師

範学校 60 年史」

- 19) お茶の水女子大学資料 1886 年,「生徒募集規則・生徒募集入学表」
- 20) お茶の水付属幼稚園 130 年記念誌編集室 2006 年,「時の標」(フレーベル館)
- 21) 札幌市教育委員会文化資料室 1987 年,さっぽろ文庫 41「札幌とキリスト教」(札幌市) 267 頁
- 22) 札幌独立キリスト教会 1983 年,「札幌独立キリスト教会 100 年の歩み・下巻」会員名簿 336 頁
- 23) 札幌市教育委員会文化資料室 1987 年,さっぽろ文庫 41「札幌とキリスト教」(札幌市) 22 頁
- 24) 札幌独立キリスト教会 1983 年,「札幌独立キリスト教会 100 年の歩み・下巻」
- 25) 山崎長吉 1971 年,「古武士の校長列伝」(北海道教育新報社) 107 頁
- 26) 札幌市教育委員会文化資料室 1987 年,さっぽろ文庫 41「札幌とキリスト教」(札幌市) 267 頁
- 27) 引地正 1982 年,「北海道教育会機関紙」(文化評論社)
- 28) 札幌市教育委員会文化資料室 1985 年,「新聞と人名録に見る明治の札幌」(札幌市) 237 頁
- 29) 札幌市教育委員会文化資料室 1988 年,さっぽろ文庫「札幌の小学校」(札幌市) 97 頁
- 30) 札幌市教育委員会文化資料室 1985 年,「新聞と人名録に見る明治の札幌」(札幌市) 464 頁
- 31) 札幌市教育委員会文化資料室 1989 年,さっぽろ文庫 50「開拓使時代」(札幌市) 262 頁
- 32) 札幌市教育委員会文化資料室 1987 年,さっぽろ文庫 41「札幌とキリスト教」(札幌市) 267 頁
- 33) 文部省 1976 年,「幼稚園百年のあゆみ」(文部省) 35 頁 幼稚園保育及び設備規程(抄)
- 34) 札幌の歴史を楽しむ会 1981 年,「札幌・大通」154 頁
- 35) 札幌市教育委員会 1991 年,「新札幌市史第 2 巻通史 2」(札幌市)
- 36) 文部省 1976 年,「幼稚園百年のあゆみ」(文部省) 21 頁
- 37) 脚注 15 と同じ
- 38) 札幌市教育委員会文化資料室 1981 年,さっぽろ文庫 19「お雇い外国人」(札幌市) 157 頁
- 39) 札幌市教育委員会文化資料室 1987 年,さっぽろ文庫 41「札幌とキリスト教」(札幌市) 140 頁
- 40) 文部省 1976 年,「幼稚園百年のあゆみ」(文部省) 22, 23 頁
- 41) 下中彌三郎 1937 年,「大人名事典 第 3 刊」(平凡社) 95 頁
- 42) 札幌市教育委員会文化資料室 1981 年,さっぽろ文庫 18「遠友夜学校」(札幌市)
- 43) 札幌市教育委員会文化資料室 1985 年,さっぽろ文庫 34「新渡戸稲造」(札幌市) 41 頁
- 44) 山崎長吉著 1971 年,「古武士の校長列伝」(北海道教育新報社) 107 頁